

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1491000020
法人名	医療法人社団 東華会
事業所名	グループホーム サリューブルとつか
所在地 (電話番号)	横浜市戸塚区東俣野町927-3 (電 話) 045-858-5301

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者事業部		
所在地	横浜市港北区新吉田東5-76-35		
訪問調査日	平成19年8月3日	評価確定日	平成19年10月4日

## 【情報提供票より】(19年7月10日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤2人, 常勤換算	7.6 人

## (2)建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階 部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,800 円	その他の経費(月額)	65,700 円
敷 金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(279,200円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無○
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,350 円おやつ込み			

## (4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	名	男性	5 名	女性	4 名	
要介護1	4	名	要介護2	2	名	
要介護3	3	名	要介護4		名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	81.89 歳	最低	69 歳	最高	93 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	内科・瀬谷医院 湘南台中央デンタルクリニック ソフィア内科クリニック
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 大通りから入った、緑の多い、静かな環境の中に位置して、建物は木造の、一般家庭のような雰囲気を感じさせる。
2. 理念の「笑顔」を大事に、経験豊かなホーム長が利用者やスタッフの意見を十分に聞き、もう一つの我が家を目指した介護をしている。
3. 食後の片付け、自分のものは自分で洗うなど自立と自尊心を持たせることを指向している。
4. 2週間に1回の医師による検診、バイタルチェックや入浴回数の確保、気温・湿度に応じた水分摂取の方法など、健康管理を大切にしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価がないため、今回の評価を前向きに考え、改善に取り組む姿勢を示している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は一部職員の意見を聞き、管理者がまとめている。自己評価及び今回の評価をもとにより良くなるよう改善に向けて意欲的である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	戸塚区の指導のもと、9月に開催予定の運営推進会議に向けて家族、自治会、民生委員、地域包括支援センターなどに働きかけている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者は家族や戸塚区の担当者から意見・要望を聞いて運営に反映させているが、利用者本人と面接を行ない意見や苦情をしっかりと聞くようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域との交流は少ないが、近隣に住むスタッフから情報を得て、地元商店で食材を買うなどして、地域との連携作りをする努力をしている。今後、自治会や小学校、幼稚園の行事に参加し、地域交流を深めていきたいとしている。

1

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	このホームでは、「明るい笑顔、元気な笑顔、優しい笑顔」を理念におき、スタッフが利用者との触れ合いを大事にした介護が行なわれている。更にこの笑顔を地域に対して働きかける基として発信して行きたいとしている。	○	理念に地域との関連性を加えると更に良い。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み ホーム長と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時や会議において復唱したり、ホーム長より理念の意味が伝えられ徹底している。またリビング入り口に掲示し、職員はいつでも見ることが出来、介護の支えとしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との付き合いは、散歩や買い物のときに挨拶したり、一部利用者が盆踊りや小学校の運動会に参加する程度であるが、最近、自治会に加入し、地元の商店から食材を購入するなど、地域との交流を深める工夫をしている。	○	自治会の行事への参加や地域の人たちとの交流、幼稚園・小学校の生徒との交流、ホーム行事への招待等地域との関係を深めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、ホーム長、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての調査になるため、自己評価は一部職員の意見を聞き、ホーム長がまとめている。評価をもとにより良くなるように改善に向けて取り組む意向である。	○	自己評価はできるだけ大勢の職員が協力して実施することでサービスの強化につながるので、次の機会には大勢の職員に参加していただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	9月の運営推進会議に向けて、自治会、家族、地域包括センター、民生委員に働きかけを行なっている。ホームの実態を知ってもらい、第三者の目を見たアドバイスなどが聞ける会議を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の入居手続きや生活保護関連などで行政担当者とは密接に連絡している。戸塚区主催のグループホーム連絡会に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族及び行政の担当者には入居後1ヶ月目と3ヶ月目に暮らしぶりを伝え、その後は家族などの来訪時に業務日誌や個人記録を見ながら様子を報告している。 預かり金は月ごとに金銭出納帳を見て報告している。ホーム便りの作成も検討している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情をホーム長や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書には、家族等の苦情はホームの窓口や、公的機関に申し出ができることを明記している。ホーム長が利用者や家族の意見を聞いて運営に反映している。	○	契約書または重要事項説明書に公的機関の苦情相談窓口の部署、電話番号と、ホーム内の相談窓口責任者氏名を明記するのが望ましい。ホーム内に利用者と家族の意見、要望、苦情の受付先を明示するとよい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みのホーム長や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者3名を3名の職員で支援する担当制にしているので職員が代わっても影響が無い。退職や異動の時は利用者に説明して納得してもらっている。今までその影響による混乱などは起きていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、ホーム長や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による研修や採用時のホーム内研修が行なわれている。経験豊富なホーム長の指導の下に、介護リーダーが実地指導で他のスタッフの指導をしている。研修後、会議で発表している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、ホーム長や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長は横浜市、戸塚区などのグループホーム連絡協議会に参加して交流を深め、情報の収集を行ない、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者を訪問して面接したり、ホームを家族と共に見学してもらい、入居しやすいように心がけている。 「笑顔」の理念をもとに対応することで、馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	朝食後の掃除や、下膳など利用者が進んで行っている。自分の食べた食器は自分で洗い、生活の自信を高めている。職員は野菜作りを教してもらったり、収穫の時は一緒に喜ぶなど感謝の気持ちを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	新しい「生活情報シート」を使って利用者、家族、ケースワーカーから話を聞き、利用者の生活歴や意向を把握してアセスメントが行われている。またホーム長が利用者と面談をし、意見要望を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活情報シートや診療情報をもとにスタッフをグループに分け、担当制をしき、利用者についてのケース検討会議を開いて話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成する。長期・短期目標を置き、具体的な実施方法を記入している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	今まではきちんと見直しを行なっていなかったが長期目標については6ヶ月、短期のものについては2週間に一回ぐらいで居室担当の意見を聞き、ケース検討会議で話し合い、見直しをすることになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在はグループホーム事業のみで、他の事業は行なっていない。 ホームのサービスとして病院への付添いや送迎は家族のない人やできない人に対して支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度、往診医による検診があり、健康維持に努めている。提携病院ではないが、24時間対応してくれる戸塚生協病院に連絡が取れるため、緊急時には適切な医療が受けられるようにしている。健康診断は利用者、職員とも受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、重度の利用者がいないため、ターミナルケアについての方針はない。	○	終末医療を考え、家族や医師と話し合い、研修などに取り組んでほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	当日、利用者に対する、気になる対応は見受けられなかった。プライバシーを損ねないように朝礼や会議でも伝えられている。個人記録などはファイルして事務室のロッカーに施錠保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れは大まかに決まっているが、一緒に何かをすることを好まない人が多いため、利用者個々の希望に添って支援している。朝も無理に起こさず、本人の希望により朝食をずらしたりするなどの配慮をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	音楽が流れ、利用者とスタッフが一緒に話しをしながら食事をしている。スタッフの見守りのなか、下膳と食器洗いを自分ですることによって自立を助け、自信を持たせている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が入浴を好まないため、1週間に2回は入ることを目途に声掛けをしている。長湯や熱めを希望するなど各人別の「好み」に配慮し、また、沐浴剤を入れ温泉気分を楽しんでもらうなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で、掃除、洗濯物の片付け、下膳などをする。 利用者の好みを見つけ、絵が好きな人が描いた絵を壁に貼ったり、工作で壁掛けを作ったりするのを支援している。利用者は男性が多く、将棋や碁をしたり、野球や相撲のテレビ観戦で楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じて近くの公園に散歩に出かけたり、野菜売り場に寄ったり、近くのコンビニで買い物をする、海岸へのドライブや絵の展覧会を見に行くなど外出の機会を少しずつ増やしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中、鍵掛けをしていない。表玄関扉と入り口のドアにチャイムを付け、出入りが分かるようにしている。各居室のドアには鍵が付いているが、かける利用者はいない。ベランダへ出るガラス戸や居室の外側のガラス戸にも鍵を掛けず、自由に家の周りを廻れるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災及び緊急時の対応マニュアルが用意されている。9月に消防署と夜間を想定した防災訓練を行なう予定になっている。	○	災害時の非常食を備蓄するために、ホーム外の置き場所を計画中であるが、その実現を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや食べたいものを聞き、献立を作成している。実際に食べた内容を法人内老人保健施設の管理栄養士に見てもらい、栄養バランスなどアドバイスを受けている。食事や水分の摂取量を記録をし健康状態と照らし合わせて確認している。気温や湿度に応じて水分摂取量を調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはテレビやテーブルが3つに分けて置いてあり、利用者同士が懇談したり、一人でいたい場所もある。小上がりの畳の部分もあり、冬場にはコタツが喜ばれている。広いベランダも休息の場になっていて、壁には利用者が作った壁掛けが掛けられている。日中は明かるいリビングのテーブルで過ごす人が多く、気持ちよく過ごせる場になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族のいる利用者、女性の利用者の居室には使い慣れた箆笥、テーブル、仏壇、テレビ、カレンダー、写真、化粧道具などが置いてある。ござっぱりと、道具を置いていない人の部屋もあるが、それぞれ自分の好みの部屋になっている。		